

介護福祉士養成プロセス関連資料

◎	カリキュラム・シラバス関係	
	○カリキュラム比較表	1
	○平成12年のカリキュラム改正の概要	3
	○シラバス	4
◎	実技試験関係	
	○第17回介護福祉士試験実技試験の試験課題	33
	○過去の介護福祉士実技試験課題	34
	○介護技術講習	35
◎	通信教育関係	
	○通信教育の状況（NHK学園）	37
	（参考1）看護師養成関係	
	○看護教育制度	39
	○看護師養成カリキュラムの変遷	40
	○日本看護協会の資格認定制度	41
	（参考2）	
	○介護福祉士試験出題基準	別冊

カリキュラム比較表

(介護福祉士養成課程 (カリキュラム))

○介護福祉士養成課程
(指定規則第7条第1号)
(高卒+2年(～4年))

○介護福祉士養成課程
(指定規則第7条第2号)
(福祉系大学又は社会福祉士養成
施設卒業者)

○介護福祉士養成課程
(指定規則第7条第3号)
(保育士養成施設卒業者)

区分	科目名	形態	時間	単位※
基礎分野	人間とその生活の理解	講義	120	8
専門分野	社会福祉概論	講義	60	4
	老人福祉論	講義	60	4
	障害者福祉論	講義	30	2
	リハビリテーション論	講義	30	2
	社会福祉援助技術	講義	30	2
	社会福祉援助技術演習	演習	30	1
	レクリエーション活動援助法	演習	60	2
	老人・障害者の心理	講義	60	4
	家政学概論	講義	60	4
	家政学実習	実習	90	2
	医学一般	講義	90	6
	精神保健	講義	30	2
	介護概論	講義	60	4
	介護技術	演習	150	5
	形態別介護技術	演習	150	5
介護実習	実習	450	10	
介護実習指導	演習	90	3	
	合計		1,650	70

科目名	形態	時間	単位※
リハビリテーション論	講義	30	2
レクリエーション活動援助法	演習	60	2
家政学概論	講義	60	4
家政学実習	実習	90	2
精神保健	講義	30	2
形態別介護技術	演習	120	4
介護実習	実習	360	8
介護実習指導	演習	30	1
		900	25

科目名	形態	時間	単位※
老人福祉論	講義	60	4
リハビリテーション論	講義	30	2
老人・障害者の心理	講義	30	2
家政学概論	講義	30	2
家政学実習	実習	90	2
介護概論	講義	60	4
介護技術	演習	120	4
形態別介護技術	演習	120	4
介護実習	実習	360	8
介護実習指導	演習	30	1
		930	33

※1 カリキュラムは、社会福祉士介護福祉士学校職業能力開発校等養成施設指定規則(昭和62年厚生省令第50号)による。
 ※2 単位数については規定がないため、短期大学設置基準(昭和50年文部省令第21号)第7条に基づき、次の要領で換算。
 ○講義科目 ～ 15時間で1単位
 ○演習科目 ～ 30時間で1単位
 ○実習科目 ～ 45時間で1単位

カリキュラム比較表

(介護・看護・准看)

○ 介護福祉士養成課程
 <指定規則第7条第3項課程(2年以上)>

○ 看護師養成課程
 <指定規則第4条第1項課程(3年以上)>

○ 准看護師養成課程
 <指定規則第5条課程(2年以上)>

区分	科目名	形態	時間	※単位
基礎分野	人間とその生活の理解	講義	120	8
専門分野	社会福祉概論	講義	60	4
	老人福祉論	講義	60	4
	障害者福祉論	講義	30	2
	ITハビリテーション論	講義	30	2
	社会福祉援助技術	講義	30	2
	社会福祉援助技術	演習	30	1
	高齢者生活支援法	演習	60	2
	老人・障害者の心	講義	60	4
	家政学概論	講義	60	4
	家政学実習	実習	90	2
	医学一般	講義	90	6
	精神保健	講義	30	2
	介護概論	講義	60	4
	介護技術	演習	150	5
形態別介護技術	演習	150	5	
介護実習	実習	450	10	
介護実習指導	演習	90	3	
合計			1,650	70

区分	科目名	形態	時間	単位
基礎分野	科学的思考の基盤、人間と人間生活の理解	講義	360	13
専門基礎分野	人体の構造と機能、疾病の成り立ちと回復の促進	講義	510	15
	社会保障制度と生活者の健康	講義		6
専門分野	基礎看護学	講義	990	10
	在宅看護論	演習		4
	成人看護学	演習		6
	老年看護学	演習		4
	小児看護学	演習		4
	母性看護学	演習		4
	精神看護学	演習		4
	基礎看護学(臨地実習)	実習		3
	在宅看護論(臨地実習)	実習		2
	成人看護学(臨地実習)	実習		8
	老年看護学(臨地実習)	実習		4
	小児看護学(臨地実習)	実習		2
	母性看護学(臨地実習)	実習		2
精神看護学(臨地実習)	実習	2		
合計			2,895	93

区分	科目名	形態	時間
基礎科目	国語	講義	35
	外国語	講義	35
	その他	講義	35
専門科目	人体の仕組みと働き、食生活と栄養	講義	105
	薬物と看護	演習	35
	疾病の成り立ち	演習	35
	感染と予防	演習	70
	看護と倫理	演習	35
	患者の心理	演習	35
	保健医療福祉の仕組み、看護と法律	演習	35
	看護概論	講義	35
	基礎看護技術	講義	210
	臨床看護概論	講義	70
	成人看護、老年看護	講義	210
	母子看護	講義	70
	精神看護	講義	70
基礎看護(臨地実習)	実習	210	
成人看護(老年看護)(臨地実習)	実習	385	
母子看護(臨地実習)	実習	70	
精神看護(臨地実習)	実習	70	
合計			1,890

※ 単位数、時間数について法令に規定がないものは、大学設置基準(昭和31年10月22日文部省令第28号)第21条、及び短期大学設置基準(昭和50年4月28日文部省令第21号)第7条に基づき、次の要領で換算した。

- <介護福祉士・看護師>
- 講義科目 ~ 15時間で1単位
- 演習科目 ~ 30時間で1単位
- 実習科目 ~ 45時間で1単位

平成12年のカリキュラム改正の概要

1 改正の経緯

- (1) 平成10年9月より、福祉専門職の質の向上に関する検討を行うため、「福祉専門職の教育課程等に関する検討会」が開催。
- (2) 平成11年3月10日「福祉専門職の教育課程等に関する検討会報告書」がまとめられる。
- (3) これを受け、介護福祉士養成施設における教育課程（カリキュラム）を改正し、平成12年度入学生より新カリキュラムによる教育内容を実施。

2 主な変更点

(1) 教育時間数の増加

総時間数 1,500時間 → 1,650時間（150時間増）

(2) 教育内容の充実

- ・ 介護保険制度及びケアマネジメントに関する内容の追加
- ・ 保健医療分野の専門職との連携に必要な医学知識の強化
- ・ 人権尊重、自立支援等の社会福祉の理念、コミュニケーションに関する内容の強化
- ・ 居宅介護実習の必修化
- ・ 介護過程の展開方法を追加

シラバス（介護福祉士養成施設等における授業科目の目標及び内容新旧対照表）

旧	新（平成12年4月1日以降の入学から適用）
<p style="text-align: center;">「社会福祉概論」</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における社会福祉の意義、理念について理解させる。 2 社会福祉の法体系、制度及び財政全体の要旨を理解させる。 3 社会福祉の遂行と福祉専門職の必要性について理解させる。 4 公私の福祉活動による福祉社会の確立の必要性について理解させる。 5 社会福祉の基盤としての所得、医療、住宅、雇用及び公的扶助等、社会保障制度の概要を把握させる。 <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会と社会福祉の意義 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉の理念と概念 2) 社会福祉の対象と主体 3) 社会福祉ニーズの変容 4) 社会福祉の発展 2 社会福祉の法体系と運営組織 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉法制の体系 2) 社会福祉の運営組織 3) 福祉の措置の法性格 4) 社会福祉の財政と費用負担 5) 社会福祉における公私の役割、調整（シルバーサービスを含む） 3 社会保障及び関連制度の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 所得保障制度の概要 2) 医療保障制度の概要 3) 雇用・就労制度の概要 4) 住宅制度の概要 5) 生涯教育・障害教育制度の概要 4 社会福祉援助技術の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉援助技術の発展 2) 社会福祉援助技術の概要とその動向 5 福祉資格法の成立と目的 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉従事者群の概要 2) 社会福祉従事者と専門性 3) 福祉資格法の目的と倫理 	<p style="text-align: center;">「社会福祉概論」</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における社会福祉の意義、理念について理解させる。 2 地域福祉の確立の必要性について理解させる。 3 社会福祉の法体系、制度及び財政全体の要旨を理解させる。 4 社会福祉の基盤としての所得保障、医療保障及び介護保険制度並びに住宅、雇用等の関連制度の概要を把握させる。 5 社会福祉の遂行と福祉専門職の必要性について理解させる。 <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会と社会福祉の意義 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉の理念（人権尊重、権利擁護、自立支援等を含む）と概要 2) 社会福祉の対象と主体 3) 社会福祉需要の変容 4) 社会福祉の発展 2 地域福祉の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域福祉の概念 2) 地域福祉の内容と推進組織、担い手 3) 地域福祉計画及び財源 3 社会福祉の法体系と運営組織 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉法制の体系 2) 社会福祉の運営組織 3) 福祉サービスの提供と利用（利用者保護制度を含む） 4) 社会福祉の財政と費用負担 5) 社会福祉における公私の役割、調整（シルバーサービスを含む） 4 社会保障及び関連制度の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 所得保障制度の概要 2) 医療保障制度の概要 3) 介護保険制度の概要 4) 雇用・就労制度の概要 5) 住宅制度の概要 6) 生涯教育・障害教育制度の概要 5 社会福祉援助技術の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉援助技術の発展 2) 社会福祉援助技術の概要とその動向 6 福祉資格法の成立と目的 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉従事者の概要 2) 社会福祉従事者と専門性 3) 福祉資格法の目的と内容

6 社会福祉の動向

- 1) 高齢社会への対応
- 2) 在宅福祉・地域福祉の台頭
- 3) 社会福祉改革の動き

旧	新
<p style="text-align: center;">「老人福祉論」</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 老人福祉の社会的背景について理解させる。 2 老人福祉の理念、目的を理解させる。 3 現行の老人福祉、老人保健サービスの体系、事業内容及び活用手続き等、具体的な実践活動の理解を深めさせる。 4 民間シルバーサービスの現状とその社会的意義について理解させる。 5 老人福祉サービスと関連行政の一体的運営の必要性を理解させる。 <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会と老人問題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢社会の到来と意義（人口の高齢化、社会経済及び家族構造の変動等） 2) 老人問題の顕在化 3) 老人の福祉ニーズの拡大と質的变化 2 老人福祉サービスと行財政システム <ol style="list-style-type: none"> 1) 老人福祉法の目的、理念 2) 老人福祉サービスの発展（戦後の福祉施策を中心に） 3) 老人福祉サービスと関係推進機関 4) 老人福祉サービスの財政システム 5) 老人福祉サービスにかかわる関係職員 6) 老人福祉サービスと保健医療サービスとの連携 	<p style="text-align: center;">「老人福祉論」</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 老人福祉の社会的背景について理解させる。 2 老人福祉の理念、目的を理解させる。 3 老人福祉、老人保健及び介護保険制度の概要とサービスの体系、内容及び利用手続き等、具体的な実践活動を理解させる。 4 老人福祉サービスと関連行政の一体的運営の必要性を理解させる。 5 民間シルバーサービスの現状とその社会的意義について理解させる。 <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会と老人問題 <ol style="list-style-type: none"> 1) 少子高齢社会の到来と意義（人口構成、社会経済及び家族構造の変動等） 2) 老人問題の顕在化 3) 老人の福祉需要の拡大と質的变化 2 老人福祉制度の概要とサービス <ol style="list-style-type: none"> 1) 老人福祉法の目的、理念 2) 老人福祉サービスの発展（戦後の福祉施策を中心に） 3) 老人福祉サービスと関係推進機関 4) 老人福祉サービスの財政システム 5) 老人福祉サービスにかかわる関係職員 6) 老人福祉サービスと保健医療サービスとの連携 3 老人福祉サービスの体系と内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老人福祉サービスの体系 2) 在宅福祉サービスの内容 <ol style="list-style-type: none"> ①在宅福祉サービスの意義（概念と役割、対象と需要、運営形態の多様性と財政） ②在宅福祉サービスの種類と実施目的（社会参加サービスを含む） 3) 施設福祉サービスの内容 <ol style="list-style-type: none"> ①老人ホームの意義及び運営（意義と役割、利用手続、設置運営形態、設備運営基準、運営費と整備費、利用者負担システム） ②老人ホームにおけるサービス（理念、内容と目標、評価、施設と地域社会とのかかわり） 4 介護保険制度の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護保険制度の目的、理念 2) 介護保険制度の運営と財源 3) 介護保険制度に基づく給付 4) 介護保険制度の利用手続き

3 在宅福祉サービスの理念と体系

1) 在宅福祉サービスの意義 (概念と役割、対象とニーズ、運営形態の多様性と財政)

2) 在宅福祉サービスの種類と実施目的

①在宅ケア・サービス (家庭訪問・施設利用・物品給付等、各サービスの目的と事業内容)

②社会参加サービスの種類と実施目的 (意義、種類と事業内容)

4 施設福祉サービスの体系と処遇

1) 老人ホームの体系及び運営 (意義と役割、現行体系と入所手続、設置運営形態、設備運営基準、運営費と整備費、利用者負担システム)

2) 老人ホームの処遇 (処遇理念、処遇内容と処遇目標、処遇評価、施設の社会化)

5 民間シルバーサービスの現状と今後の展望 (概念、登場の社会経済的背景、活動分野の現状、振興の必要性)

6 老人保健サービスと行財政システム

1) 老人保健法の目的、理念

2) 老人保健サービスと関係推進機関

3) 老人保健サービスの財政システム

4) 老人保健サービスにかかわる関係職員

5) 老人保健サービスの種類と実施目的

7 老人福祉と関連分野の連携

1) 保健医療サービス

2) 所得、就労、住宅、税制、生涯教育、人権等

8 事例研究 (具体的な事例を通じ介護福祉専門職として福祉と保健医療等の一体的運用の必要性を学ぶ)

1) 寝たきり老人の場合

2) 痴呆性老人の場合

3) その他一人暮らし老人の場合等

5 民間シルバーサービスの現状と展望 (概念、登場の社会的背景、活動分野の現状、振興の必要性)

6 老人福祉と関連分野の連携

1) 保健医療サービス (老人保健制度の概要、老人保健サービスの体系及び内容を中心に)

2) 所得、就労、住宅、税制、生涯教育、人権、成年後見制度等

7 事例研究 (具体的な事例を通じ介護福祉士として福祉と保健医療等の一体的運用の必要性を学ぶ)

1) 寝たきり老人の場合

2) 認知症老人の場合

3) 一人暮らし老人の場合等

旧	新
<p style="text-align: center;">「障害者福祉論」</p> <p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害の概念と障害者の実態を理解させる。 2 障害者福祉の基本理念について理解させる。 3 障害者福祉の法とサービスの体系と内容を理解させる。 4 福祉施策に関する処遇指導の具体的方法を理解させる。 <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害の概念と障害者の実態 <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害の概念(WHO国際障害分類試案等により障害の概念を整理する) 2) 障害者の法的定義(福祉対策、所得保障、災害補償等の各種施策における障害認定の異同について検討する) 3) 障害者の実態(各種調査データにより障害者の実態を紹介する) 2 障害者福祉の基本理念 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自立とリハビリテーションの理念 2) ノーマライゼーションの理念と「完全参加と平等」(国際動向を中心に福祉理念の発展をみる) 3) 福祉理念の発展と心身障害者対策基本法(国内動向を中心に福祉理念の発展をみる) 3 障害者福祉サービスの体系と内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害者福祉サービスの発展(戦後の福祉施策を中心に) 2) 福祉サービスの概要 <ol style="list-style-type: none"> ①障害児対策(児童福祉法を中心に) ②身体障害者対策(身体障害者福祉法を中心に、戦傷病者特別援護法等の施策にもふれる) ③精神薄弱者対策(精神薄弱者福祉法を中心に) ④精神障害者対策(精神保健法を中心に社会福祉施策にもふれる) 3) 福祉施策の周辺 <ol style="list-style-type: none"> ①保健医療(母子保健法、医療保険各法等に関する事項) ②教育(特殊教育等に関する事項) ③雇用・就労(障害者雇用促進法等に関する事項) ④年金・手当(年金各法、手当各法に関する事項) ⑤住宅(公営住宅法等に関する事項) ⑥生活環境(交通、通信、公共施設の整備等に関する事項) ⑦経済的負担の軽減(税制、公共料金、融資等に関する事項) 4 事例研究(各障害別に具体的な事例を通じ介護福祉専門職として福祉処遇の過程を検討し学ぶ) <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害児問題 2) 身体障害者問題 3) 精神薄弱者問題 	<p style="text-align: center;">「障害者福祉論」</p> <p>【目的】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害の概念と障害者の実態を理解させる。 2 障害者福祉の基本理念と目的について理解させる。 3 障害者福祉の法とサービスの体系及び内容について理解させる。 4 福祉サービスの具体的内容を理解させる。 <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 障害の概念と障害者の実態 <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害の概念(WHO国際障害分類等により障害の概念を整理する) 2) 障害者の法的定義(福祉対策、所得保障、災害補償等の各種施策における障害認定の異同について理解させる) 3) 障害者の実態(各種調査データにより障害者の実態を紹介する) 2 障害者福祉の基本理念 <ol style="list-style-type: none"> 1) <u>人権尊重と権利擁護</u> 2) 自立とリハビリテーションの理念 3) ノーマライゼーションの理念と「完全参加と平等」(国際動向を中心に福祉理念の発展をみる) 4) 福祉理念の発展と障害者基本法(国内動向を中心に福祉理念の発展をみる) 3 障害者福祉サービスの体系と内容 <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害者福祉サービスの発展(戦後の福祉施策を中心に<u>障害者プラン</u>についてもふれる) 2) 障害者福祉サービスの概要 <ol style="list-style-type: none"> ①障害児に対するサービス(児童福祉法を中心に) ②身体障害者に対するサービス(身体障害者福祉法を中心に、戦傷病者特別援護法等の施策にもふれる) ③知的障害者に対するサービス(知的障害者福祉法を中心に) ④精神障害者に対するサービス(精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の中から<u>社会福祉施策</u>を中心にふれる) 3) 福祉施策の周辺 <ol style="list-style-type: none"> ①保健医療(母子保健法、医療保険各法等に関する事項) ②教育(特殊教育等に関する事項) ③雇用・就労(障害者雇用促進法等に関する事項) ④年金・手当(年金各法、手当各法に関する事項) ⑤住宅(公営住宅法等に関する事項) ⑥生活環境(交通、<u>情報通信</u>、公共施設の整備等に関する事項) ⑦経済的負担の軽減(税制、公共料金、融資等に関する事項) 4 事例研究(各障害別に具体的な事例を通じ介護福祉士として福祉サービスの過程を検討し学ぶ) <ol style="list-style-type: none"> 1) <u>障害児の場合</u> 2) <u>身体障害者の場合</u> 3) <u>知的障害者の場合</u>

- 4) 精神障害者問題
- 5) 重複障害者問題

(注) 障害者には障害児を含む。

- 4) 精神障害者の場合
- 5) 重複障害者の場合

(注) 障害者には障害児を含む。

旧	新
<p style="text-align: center;">「リハビリテーション論」</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 リハビリテーションの理念と基本原則について理解させる。 2 障害の程度とその影響を理解させる。 3 目標の設定とリハビリテーション計画について理解させる。 4 社会的リハビリテーションの実施と社会資源について理解させる。 <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 リハビリテーションの理念と基本原則 <ol style="list-style-type: none"> 1) リハビリテーション事業の歴史的発展と現代社会におけるリハビリテーション・ニーズ 2) 全人間的復権への基本原則（リハビリテーションの概念と基本原則） 3) リハビリテーションにおける総合的な援助体系と社会的リハビリテーションとの関係 4) リハビリテーション分野の専門職群と介護福祉専門職の役割及びチーム・ワーク 2 障害の程度とその影響 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老化による機能障害老人の場合 2) 障害者の場合（身体障害、精神発達障害、精神障害、重複障害） 3 目標の設定とリハビリテーション計画 <ol style="list-style-type: none"> 1) 目標の設定とリハビリテーション計画 2) リハビリテーション過程（相談・評価・訓練・プレースメント・後指導） 3) 個人的特性の把握 4) 日常生活動作（ADL）評価 5) 職業評価 6) 社会参加の実現 4 社会的リハビリテーションの実施と社会資源 <ol style="list-style-type: none"> 1) 専門職と専門技術 2) リハビリテーションに係わる社会資源 3) リハビリテーション機器 4) 環境の改善 5) 社会的態度の変容 5 事例研究（社会的リハビリテーション実践中心） 機能障害老人及び障害形態別障害者の事例研究 <p style="text-align: right;">（注）障害者には障害児を含む。</p>	<p style="text-align: center;">「リハビリテーション論」</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 リハビリテーションの理念と基本原則を理解させる。 2 障害の程度とその影響を理解させる。 3 <u>リハビリテーションの展開過程</u>について理解させる。 4 <u>日常生活の自立支援及び社会生活能力の維持拡大への援助</u>について理解させる。 <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 リハビリテーションの理念と基本原則 <ol style="list-style-type: none"> 1) リハビリテーション事業の<u>発展</u>と現代社会におけるリハビリテーションの<u>需要</u> 2) リハビリテーションの概念及び基本原則 3) リハビリテーションにおける総合的<u>サービス</u>体系 2 障害の程度とその影響 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老化による機能障害 2) 障害者の<u>身体的障害</u>、<u>知的障害</u>、精神障害、重複障害 3) <u>障害児の発達障害</u> 3 <u>リハビリテーションの展開過程</u> <ol style="list-style-type: none"> 1) <u>リハビリテーション過程（相談と事前評価、リハビリテーション計画の作成（目標の設定を含む）、実施、実施後の評価）</u> 2) 個人的特性の把握 3) 日常生活動作（ADL）評価 4) 職業評価 5) 社会参加の実現 4 <u>リハビリテーションと介護</u> <ol style="list-style-type: none"> 1) <u>日常生活の自立支援及び社会生活能力の維持・拡大への援助</u> 2) <u>リハビリテーション分野の専門職との連携</u> 5 事例研究 <u>障害形態別の事例</u> <p style="text-align: right;">（注）障害者には障害児を含む。</p>

旧	新
<p style="text-align: center;">「社会福祉援助技術」</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護福祉の実践にとって必要な社会福祉援助技術の大意を理解させる。 2 社会福祉援助技術の方法及び内容について理解させる。 3 個別及び集団援助技術については、修得した理論、技術を実技演習形態を通じてその応用能力を向上させる。 4 他の専門職種とのチームワークの大切さとチームメンバーとしての自覚を高めさせる。 <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護福祉と社会福祉援助技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉援助技術の意味 2) 社会福祉援助技術の方法 3) 介護福祉と社会福祉援助技術の関係 4) 社会福祉援助技術の統合化の動向 2 個別援助技術（ケースワーク）の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 個別援助技術の意義と機能 2) 個別援助技術の構成要素 3) 個別援助技術の原則（援助者の基本的態度及び被援助者間との専門関係の原則等） 4) 個別援助技術の展開過程（受理面接、社会診断、処遇計画の作成） 5) 個別援助技術の手段（面接、記録、評価） 6) 老人・障害者の介護場面と個別援助技術の実際 7) 個別援助技術と隣接技術領域（カウンセリング等） 3 集団援助技術（グループワーク）の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 集団援助技術の意義と機能 2) 集団援助技術の援助媒体 3) 集団援助技術の援助展開過程 4) 老人・障害者の介護場面と集団援助技術の実際 4 地域援助技術（コミュニティワーク）の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域援助技術の意義と機能 2) 地域援助技術の基本的性格 3) 地域援助技術の具体的実践事例 4) 地域援助技術従事者群と介護福祉専門職との連携 5 スーパービジョンとチームワーク <ol style="list-style-type: none"> 1) スーパービジョンの意義と方法 2) 専門関連職種とのチームワーク 3) 家族介護者への支援 4) ボランティアの活用と指導 6 事例研究（演習） 老人の場合（在宅の場、施設の場）、障害者の場合（在宅の場、施設の場） 	<p style="text-align: center;">「社会福祉援助技術」</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護福祉士の実践にとって必要な社会福祉援助技術の大意を理解させる。 2 社会福祉援助技術の方法及び内容について理解させる。 3 他の専門職種とのチームワークの大切さとチームメンバーとしての自覚を高めさせる。 4 介護保険法の居宅サービス計画及び施設サービス計画の意義及び概要について理解させる。 <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護福祉士と社会福祉援助技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉援助技術の意味 2) 社会福祉援助技術の方法 3) 介護と社会福祉援助技術の関係 4) 社会福祉援助技術の統合化の動向 2 個別援助技術（ケースワーク）の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 個別援助技術の意義と機能 2) 個別援助技術の構成要素 3) 個別援助技術の原則（援助者の基本的態度及び専門的援助関係形成のためのコミュニケーション等） 4) 個別援助技術の展開過程（援助開始時の面接、事前評価、援助計画の作成、実施、実施後の評価） 5) 個別援助技術の手段（面接、記録、評価） 6) 個別援助技術と隣接技術領域（カウンセリング等） 3 集団援助技術（グループワーク）の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 集団援助技術の意義と機能 2) 集団援助技術の援助展開過程 4 地域援助技術（コミュニティワーク）の理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域援助技術の意義と機能 2) 地域援助技術の基本的性格 3) 地域援助技術の具体的実践事例 4) 地域援助技術従事者と介護福祉士との連携

(注) 障害者には障害児を含む。

5 居宅介護支援の理解

1) 意義と概要

2) 展開過程及び内容

6 チームワーク

1) 専門関連職種との連携、チームワーク

2) 家族介護者への支援

3) ボランティアの活用と指導

(注) 障害者には障害児を含む。

旧	新
「社会福祉援助技術」	<p data-bbox="1429 213 1727 240">「社会福祉援助技術演習」</p> <p data-bbox="1111 245 1193 272">【目標】</p> <p data-bbox="1099 277 2063 341">1 個別及び集団援助技術については、習得した社会福祉援助技術の理論、技術を演習し、応用能力を向上させる。</p> <p data-bbox="1099 341 2063 405">2 演習を通じて、介護保険法の居宅サービス計画及び施設サービス計画の実際を学ばせる。</p> <p data-bbox="1111 405 1193 432">【内容】</p> <p data-bbox="1099 437 2063 501">1 具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を行う。</p> <p data-bbox="1122 501 1872 528">1) 老人・障害者の介護場面における個別援助技術活用の実際</p> <p data-bbox="1122 528 1872 555">2) 老人・障害者の介護場面における集団援助技術活用の実際</p> <p data-bbox="1099 555 2040 582">2 事例に基づき、居宅サービス計画及び施設サービス計画の実際を演習する。</p> <p data-bbox="1671 628 2040 655">(注) 障害者には障害児を含む。</p>

旧	新
<p style="text-align: center;">「レクリエーション指導法」</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 レクリエーション活動の社会的意義を理解させる。 2 レクリエーション計画の作成能力の習得向上を図らせる。 3 レクリエーション指導者としての役割について理解させる。 4 レクリエーション活動の実践指導能力の習得向上に努めさせる。 <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 レクリエーションの基本的理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) レクリエーションの概念 2) レクリエーションと人間社会 2 レクリエーションの活動領域と意義 <ol style="list-style-type: none"> 1) レクリエーションの活動領域（地域社会、学校教育、職場、社会福祉分野等） 2) 社会福祉とレクリエーションの意義 3) 介護福祉利用者とレクリエーション（施設利用者、家庭利用者） 4) 介護従事者とレクリエーション（施設従事者、家庭介護者） 3 レクリエーション活動の主体 <ol style="list-style-type: none"> 1) 個人とレクリエーション 2) 集団とレクリエーション 3) 集団の力動性の活用と対応（効果と問題点への対応） 4) 介護福祉利用者とレクリエーションの動機づけ 5) レクリエーション活動の適正条件 4 レクリエーション計画の作成及び実施 <ol style="list-style-type: none"> 1) レクリエーション指導の体系化、指導者の役割 2) レクリエーション計画の目的 3) レクリエーション計画の作成・実施上の配慮（介護福祉利用者の心身特性とレクリエーション財選好の把握、レクリエーション計画の分類と体系化、レクリエーション計画の目標と内容構成、レクリエーションの実施、評価の視点・方法及び管理） 5 レクリエーション指導者の配慮 <ol style="list-style-type: none"> 1) レクリエーション指導者の介護福祉利用者との役割分担 2) レクリエーション指導者間の役割とチームワーク 3) レクリエーション実施に伴う安全確保及び財政計画等 4) 治療的レクリエーションの開発の必要性 6 レクリエーション活動の実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老人のレクリエーション活動と指導展開例 2) 障害形態別障害者のレクリエーション活動と指導展開例 <p style="text-align: right;">（注）障害者には障害児を含む。</p>	<p style="text-align: center;">「レクリエーション活動援助法」</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 レクリエーション活動の社会的意義を理解させる。 2 <u>レクリエーション活動の援助者としての役割について理解させる。</u> 3 <u>レクリエーション計画の作成能力を習得向上させる。</u> 4 <u>レクリエーション活動の実践援助能力を習得向上させる。</u> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 レクリエーションの基本的理解 <ol style="list-style-type: none"> 1) レクリエーションの概念 2) レクリエーションと人間社会 2 レクリエーションの活動領域と意義 <ol style="list-style-type: none"> 1) レクリエーションの活動領域（地域社会、学校教育、職場、社会福祉分野等） 2) 社会福祉とレクリエーションの意義 3) <u>利用者</u>とレクリエーション（施設利用者、家庭利用者） 4) 介護従事者とレクリエーション 3 レクリエーション活動の主体 <ol style="list-style-type: none"> 1) 個人とレクリエーション 2) 集団とレクリエーション 3) 集団の力動性の活用と対応（効果と問題点への対応） 4) <u>利用者</u>とレクリエーション活動の動機づけ 5) レクリエーション活動の適正条件 4 <u>レクリエーション活動</u>計画の作成及び実施 <ol style="list-style-type: none"> 1) <u>レクリエーション活動援助</u>の体系化、<u>援助者</u>の役割 2) <u>レクリエーション活動</u>計画の目的 3) <u>レクリエーション計画</u>の作成・実施上の配慮（<u>利用者</u>の心身の特性とレクリエーション財選好の把握、レクリエーション計画の分類と体系化、レクリエーション計画の目標と内容構成、レクリエーションの実施、評価の視点・方法及び管理） 5 <u>レクリエーション活動援助者</u>の役割 <ol style="list-style-type: none"> 1) <u>レクリエーション活動援助者</u>の利用者との役割分担 2) <u>レクリエーション活動援助者</u>間の役割とチームワーク 3) <u>レクリエーション活動</u>に伴う安全確保及び財政計画等 4) <u>治療的意味あいを含めたレクリエーション活動</u>の開発の必要性 6 <u>レクリエーション活動</u>の実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老人のレクリエーション活動と<u>援助</u>展開例 2) 障害形態別障害者のレクリエーション活動と<u>援助</u>展開例 <p style="text-align: right;">（注）障害者には障害児を含む。</p>

旧	新
<p style="text-align: center;">「老人・障害者の心理」</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 老化や障害の与える心理的影響について理解させる。 2 老人の心理的特性について理解させる。 3 各種障害者の心理的特性について理解させる。 4 老人や障害者の心理への対応について理解させる。 <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 老化の心理的影響 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老化及び老人に関する研究の歴史 2) 老化とは 3) 心理学的な老化学説 4) 老性自覚 5) 老化と適応 2 障害とその心理的影響 <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害と障害者 2) 障害の及ぼす心理的影響（感覚・知覚、認知、自己概念、発達、性格・行動） 3) 障害の受容 4) 適応と適応規制 3 老人の心理的特性 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神機能の老化 2) 記憶の老化 3) 知能の老化 4) 性格の老化と性格特性 5) 老年期の異常心理（老年期精神障害と痴呆） 4 障害の原因・程度・種類別心理的特性 <ol style="list-style-type: none"> 1) 先天性障害と中途障害 2) 重度障害と中・軽度障害 3) 感覚機能系障害、運動機能系障害及びその他の障害 4) 視覚障害（先天盲、弱視、中途失明） 5) 聴覚障害（先天ろう、難聴、中途失聴） 6) 肢体不自由（脳損傷に起因する肢体不自由、脳損傷に起因しない肢体不自由） 7) 言語障害（聴力障害による言語障害、発声発語及び構音障害による言語障害、その他の原因による言語障害） 8) 内部障害 9) 精神薄弱 10) 精神障害 11) 重複及びその他の障害 	<p style="text-align: center;">「老人・障害者の心理」</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 老化や障害が及ぼす心理的影響について理解させる。 2 老人や障害者の心理への対応について理解させる。 <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間の成長発達と心理的理解 2 老化とその心理的影響 <ol style="list-style-type: none"> 1) 老化の概念 2) 老化が及ぼす心理的影響（精神機能の老化、記憶の老化、知能の老化等） 3) 老化と適応 4) 老年期の主な精神障害（認知症等） 3 障害とその心理的影響 <ol style="list-style-type: none"> 1) 障害と障害者 2) 障害が及ぼす心理的影響（感覚・知覚、認知、自己概念、発達、性格・行動） 3) 障害の形態と心理的影響 4) 障害の受容 5) 適応と適応規制